

千葉県公立高等学校入学者選抜に関するアンケート結果

千葉県高等学校長会
高校入試対策委員会

○ 調査対象
千葉県高等学校長協会に加入しているすべての高等学校長

○ 調査時期
平成27年7月8日から8月5日

○ 回収率

公立	129/130校	(99.2%)
私立	39/59校	(66.1%)
全体	168/189校	(88.9%)

1 今年度(平成27年度)の入学者選抜を振り返って

(1) 日程、時期について

ア 前期選抜(地域連携アクティブスクールⅠ期)の日程について

	公立	私立	計
①早すぎる	15校 11.7%	9校 25.7%	24校 14.7%
②遅すぎる	16校 12.5%	3校 8.6%	19校 11.7%
③適切である	97校 75.8%	23校 65.7%	120校 73.6%

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
10校 12.8%	5校 10.0%
10校 12.8%	6校 12.0%
58校 74.4%	39校 78.0%

イ 後期選抜(地域連携アクティブスクールⅡ期)の日程について

	公立	私立	計
①早すぎる	9校 7.0%	4校 11.4%	13校 8.0%
②遅すぎる	24校 18.8%	9校 25.7%	33校 20.2%
③適切である	95校 74.2%	22校 62.9%	117校 71.8%

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
7校 9.0%	2校 4.0%
14校 17.9%	10校 20.0%
57校 73.1%	38校 76.0%

ウ 入試の全期間について

	公立	私立	計
①長すぎる	68校 52.7%	22校 59.5%	90校 54.2%
②短すぎる	5校 3.9%	0校 0.0%	5校 3.0%
③適切である	56校 43.4%	15校 40.5%	71校 42.8%

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
39校 50.0%	29校 56.9%
3校 3.8%	2校 3.9%
36校 46.2%	20校 39.2%

前・後期選抜の日程については、全体の7割以上の高校が「適切である」と回答しているが、前期選抜では、全体の14.7%（私立高校の25.7%）の高校が「早すぎる」とし、逆に、後期選抜では、全体の約20.2%（私立高校の25.7%）の高校が「遅すぎる」と回答している。

また、入試の全期間については、全体の54.2%が「長すぎる」とし、「適切である」と回答した高校（42.8%）を11.4ポイント上回っており、入試期間の長期化が、各校の教育活動へ影響を及ぼしている現状が推察される。

(2) 募集人員について

ア 普通科(地域連携アクティブスクールを除く)の前期選抜の定員枠(30%以上60%以内)について

	公立	私立	計
①多い	2校 1.6%	11校 30.6%	13校 8.0%
②少ない	45校 35.4%	5校 13.9%	50校 30.7%
③適切である	80校 63.0%	20校 55.6%	100校 61.3%

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
2校 2.6%	0校 0.0%
29校 37.2%	16校 32.7%
47校 60.3%	33校 67.3%

イ 地域連携アクティブスクールのI期選抜の定員枠(60%以上80%以内)について

	公立	私立	計
①多い	4校 3.4%	10校 27.8%	14校 9.0%
②少ない	37校 31.1%	3校 8.3%	40校 25.8%
③適切である	78校 65.5%	23校 63.9%	101校 65.2%

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
4校 5.4%	0校 0.0%
15校 20.3%	22校 48.9%
55校 74.3%	23校 51.1%

ウ 専門学科の前期選抜の定員枠(50%以上80%以内)について

	公立	私立	計
①多い	5校 4.0%	11校 30.6%	16校 9.9%
②少ない	60校 48.0%	3校 8.3%	63校 39.1%
③適切である	60校 48.0%	22校 61.1%	82校 50.9%

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
5校 6.8%	0校 0.0%
22校 29.7%	38校 74.5%
47校 63.5%	13校 25.5%

普通科の前期定員枠については、全体の61.3%の高校が「適切である」と回答しているが、「少ない」と回答した高校は、全体の30.7%、公立高校の35.4%(普通科のみ設置の公立高校の37.2%)を占めている。一方、私立高校では、「適切である」と回答したのは、55.6%、30.6%の高校が「多い」と回答しており、公立高校と私立高校の回答に、大きな隔たりが見られた。

地域連携アクティブスクールの定員枠については、公立高校、私立高校ともに、普通科の定員枠に対する回答と同じ傾向が見られたが、普通科以外の学科を有する公立高校では、約半数(48.9%)の高校が「少ない」と回答していることが特徴的である。

専門学科の前期定員枠については、「適切である」と回答した高校は、全体の50.9%(公立高校の48.0%)である一方で、同数の48.0%の公立高校が「少ない」と回答している。また、普通科以外の学科を有する公立高校に限ると、74.5%もの高校が「少ない」と回答しており、専門学科の定員枠については、「少ない」と感じている公立高校がかなりの割合存在することが分かった。私立高校では、普通科の場合と同様に、「多い」と回答した学校が約30%を占め、「適切である」は61.1%であった。

(3) 学力検査について

ア 前期の試験問題について

	公立	私立	計
①どちらかといえば難しい	16校 12.4%	1校 2.9%	17校 10.4%
②どちらかといえば易しい	5校 3.9%	5校 14.3%	10校 6.1%
③適当である	108校 83.7%	29校 82.9%	137校 83.5%

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
12校 15.4%	4校 7.8%
4校 5.1%	1校 2.0%
62校 79.5%	46校 90.2%

イ 後期の試験問題について

	公立	私立	計
①どちらかといえば難しい	6 校 4.7 %	2 校 5.7 %	8 校 4.9 %
②どちらかといえば易しい	20 校 15.5 %	7 校 20.0 %	27 校 16.5 %
③適当である	103 校 79.8 %	26 校 74.3 %	129 校 78.7 %

公立高校のうち

普通科のみ設置校	それ以外
5 校 6.4 %	1 校 2.0 %
10 校 12.8 %	10 校 19.6 %
63 校 80.8 %	40 校 78.4 %

学力検査の試験問題については、前期選抜、後期選抜ともに8割近くの高校が「適当である」と回答している。一方、前期選抜では、12.4%の公立高校が「どちらかといえば難しい」、後期選抜では、15.5%の公立高校が「どちらかといえば易しい」と回答している。私立高校では、前期、後期ともに、多くの高校が「適当である」としているが、15~20%近くの高校は「どちらかといえば易しい」と感じている。

(4) 出願について(私立学校、千葉大宮高校、松戸南高校を除く)

ア 円滑な受付業務ができましたか

	公立
①はい	114 校 89.8 %
②いいえ	7 校 5.5 %
③どちらともいえない	6 校 4.7 %

公立高校のうち

普通科のみ設置校	それ以外
65 校 85.5 %	49 校 96.1 %
6 校 7.9 %	1 校 2.0 %
5 校 6.6 %	1 校 2.0 %

イ 出願書類全般について

	公立
①複雑と感じる	14 校 11.0 %
②複雑だがやむを得ない	52 校 40.9 %
③適切である	61 校 48.0 %

公立高校のうち

普通科のみ設置校	それ以外
10 校 13.2 %	4 校 7.8 %
26 校 34.2 %	26 校 51.0 %
40 校 52.6 %	21 校 41.2 %

ウ 志願理由書を学校裁量で提出を求めるとした変更について

	公立
①よかった	107 校 84.3 %
②よくなかった	6 校 4.7 %
③どちらともいえない	14 校 11.0 %

公立高校のうち

普通科のみ設置校	それ以外
67 校 88.2 %	40 校 78.4 %
4 校 5.3 %	2 校 3.9 %
5 校 6.6 %	9 校 17.6 %

エ 入学確約書を保護者印のみと変更したことについて

	公立
①よかった	94 校 74.0 %
②よくなかった	9 校 7.1 %
③どちらともいえない	24 校 18.9 %

公立高校のうち

普通科のみ設置校	それ以外
59 校 77.6 %	35 校 68.6 %
4 校 5.3 %	5 校 9.8 %
13 校 17.1 %	11 校 21.6 %

出願に関しては、約90%の高校で円滑な受付業務ができているが、出願書類については、「適切である」と回答したのは48.0%、残りの52.0%の高校は、「複雑と感じる」あるいは、「複雑だかやむを得ない」と感じている。志願理由書に関する変更、入学確約書に関する変更に対しては、それぞれ84.3%、74.0%の高校が、「よかった」と肯定的であるが、志願理由書に関する変更では、11.0%、入学確約書に関する変更では、18.9%の高校が「どちらともいえない」と回答している。

(5)その他

ア 前期選抜において特色化選抜の理念が次第に薄れつつある。

	公立	私立	計
①はい	71 校 55.0 %	28 校 75.7 %	99 校 59.6 %
②いいえ	22 校 17.1 %	0 校 0.0 %	22 校 13.3 %
③どちらともいえない	36 校 27.9 %	9 校 24.3 %	45 校 27.1 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
44 校 56.4 %	27 校 52.9 %
16 校 20.5 %	6 校 11.8 %
18 校 23.1 %	18 校 35.3 %

イ 前期選抜1日目での5教科実施は受検者の負担が重すぎる。

	公立	私立	計
①はい	46 校 35.7 %	8 校 21.6 %	54 校 32.5 %
②いいえ	53 校 41.1 %	13 校 35.1 %	66 校 39.8 %
③どちらともいえない	30 校 23.3 %	16 校 43.2 %	46 校 27.7 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
24 校 30.8 %	22 校 43.1 %
34 校 43.6 %	19 校 37.3 %
20 校 25.6 %	10 校 19.6 %

ウ 後期選抜を1日で実施するには、内容的に受検者の負担が重すぎる。

	公立	私立	計
①はい	58 校 45.0 %	8 校 21.6 %	66 校 39.8 %
②いいえ	37 校 28.7 %	13 校 35.1 %	50 校 30.1 %
③どちらともいえない	34 校 26.4 %	16 校 43.2 %	50 校 30.1 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
35 校 44.9 %	23 校 45.1 %
21 校 26.9 %	16 校 31.4 %
22 校 28.2 %	12 校 23.5 %

エ 後期選抜の実態が、まるで2次募集かのようにになっている。

	公立	私立	計
①はい	35 校 27.1 %	18 校 50.0 %	53 校 32.1 %
②いいえ	56 校 43.4 %	5 校 13.9 %	61 校 37.0 %
③どちらともいえない	38 校 29.5 %	13 校 36.1 %	51 校 30.9 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
20 校 25.6 %	15 校 29.4 %
34 校 43.6 %	22 校 43.1 %
24 校 30.8 %	14 校 27.5 %

オ 入試に関する業務が増え、教職員への負担が増大している。

	公立	私立	計
①はい	99 校 76.7 %	15 校 42.9 %	114 校 69.5 %
②いいえ	6 校 4.7 %	2 校 5.7 %	8 校 4.9 %
③どちらともいえない	24 校 18.6 %	18 校 51.4 %	42 校 25.6 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
64 校 82.1 %	35 校 68.6 %
4 校 5.1 %	2 校 3.9 %
10 校 12.8 %	14 校 27.5 %

カ 入学者選抜の期間が長く、教育活動に支障がある。

	公立	私立	計
①はい	105 校 81.4 %	18 校 51.4 %	123 校 75.0 %
②いいえ	5 校 3.9 %	2 校 5.7 %	7 校 4.3 %
③どちらともいえない	19 校 14.7 %	15 校 42.9 %	34 校 20.7 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
64 校 82.1 %	41 校 80.4 %
4 校 5.1 %	1 校 2.0 %
10 校 12.8 %	9 校 17.6 %

アの「前期選抜において特色化選抜の理念が次第に薄れつつある」について、「はい」と回答した高校は、全体の59.6%（公立高校の55.5%、私立高校の75.7%）を占め、全体の半数以上の高校が、特色化の理念が薄れつつあると感じていることが分かる。

イ、ウの「前期選抜（学力検査）及び後期選抜において、1日での実施は、受検者の負担が重すぎる」については、前期選抜では、公立高校の35.7%、後期選抜では公立高校の45.0%が「はい」と回答している一方で、「いいえ」と回答した公立高校は、前期選抜で41.1%、後期選抜で28.7%を占め、各学校の状況によるところが大きいが、前期選抜よりも後期選抜で、受検者の負担を感じている高校が若干多い。私立高校は、前期、後期ともに、「いいえ」という回答が約35%と「はい」という回答を10ポイント以上、上回っている。

エの「後期選抜の実態が、まるで2次募集かのようにになっている」については、「いいえ」と回答した公立高校が43.4%と最も多く、残りの約30%ずつが「どちらともいえない」、「はい」という結果であった。学校ごとに状況は異なるが、全体的には、後期選抜が必ずしも2次募集化しているとはいえない結果となった。

オの「入試業務の増加による教職員への負担の増大」については、全体の69.5%（公立高校の76.7%）が、「はい」と回答しており、入試制度の複数化、複雑化等に伴い、多くの学校で教職員への負担が増大していることが伺える。

カの「入学者選抜の期間が長く、教育活動に支障がある。」については、全体の75.0%（公立高校の81.4%）の高校が「はい」と回答しており、入試の全期間の長期化が、ほとんどの学校で教育活動に様々な影響を及ぼしていることが伺える。

2 平成28年度の改正について

(1) 日程、時期について

ア 前期選抜（地域連携アクティブスクールⅠ期）の日程について

	公立	私立	計
①早すぎる	17 校 13.3 %	17 校 48.6 %	34 校 20.9 %
②遅すぎる	14 校 10.9 %	1 校 2.9 %	15 校 9.2 %
③適切である	97 校 75.8 %	17 校 48.6 %	114 校 69.9 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
12 校 15.4 %	5 校 10.0 %
7 校 9.0 %	7 校 14.0 %
59 校 75.6 %	38 校 76.0 %

イ 後期選抜（地域連携アクティブスクールⅡ期）の日程について

	公立	私立	計
①早すぎる	6 校 4.7 %	6 校 17.1 %	12 校 7.4 %
②遅すぎる	23 校 18.0 %	8 校 22.9 %	31 校 19.0 %
③適切である	99 校 77.3 %	21 校 60.0 %	120 校 73.6 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
5 校 6.4 %	1 校 2.0 %
12 校 15.4 %	11 校 22.0 %
61 校 78.2 %	38 校 76.0 %

ウ 入試の全期間について

	公立	私立	計
①長すぎる	77 校 59.7 %	22 校 61.1 %	99 校 60.0 %
②短すぎる	3 校 2.3 %	0 校 0.0 %	3 校 1.8 %
③適切である	49 校 38.0 %	14 校 38.9 %	63 校 38.2 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
44 校 56.4 %	33 校 64.7 %
1 校 1.3 %	2 校 3.9 %
33 校 42.3 %	16 校 31.4 %

平成28年度入試の前期選抜の日程は、昨年度より3日早くなったが、このことについて、75.8%の公立高校が「適切である」と回答し（昨年度75.8%）、「早すぎる」と回答した公立高校は、13.3%（昨年度11.7%）であった。一方、私立高校では、「早すぎる」と回答した高校が、48.6%（昨年度25.7%）と大幅に増加した。

後期選抜の日程は、昨年度より2日早くなったが、このことについて、77.3%の公立高校が「適切である」と回答し（昨年度74.2%）、「遅すぎる」と回答した公立高校は、13.3%（昨年度18.0%）で、概ね肯定的であった。一方、私立高校では、「早すぎる」と回答した高校が、17.1%（昨年度11.4%）という状況であった。

入試の全期間については、「長すぎる」が、全体の60.0%（昨年度54.2%）、公立高校の59.7%（昨年度52.4%）、「適切である」が、全体の38.2%（昨年度42.8%）、公立高校の38.0%（昨年度43.4%）であり、入試の全期間については、昨年度以上に各校で困難を感じていることが伺える。

(2) 募集人員について

ア 地域連携アクティブスクールのI期選抜の定員枠(60%以上100%以内)について

	公立	私立	計
①多い	11 校 9.2 %	7 校 20.0 %	18 校 11.6 %
②少ない	5 校 4.2 %	3 校 8.6 %	8 校 5.2 %
③適切である	104 校 86.7 %	25 校 71.4 %	129 校 83.2 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
11 校 14.9 %	0 校 0.0 %
1 校 1.4 %	4 校 8.7 %
62 校 83.8 %	42 校 91.3 %

イ 専門学科の前期選抜の定員枠(50%以上100%以内)について

	公立	私立	計
①多い	11 校 8.8 %	9 校 25.7 %	20 校 12.5 %
②少ない	3 校 2.4 %	3 校 8.6 %	6 校 3.8 %
③適切である	111 校 88.8 %	23 校 65.7 %	134 校 83.8 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
11 校 14.9 %	0 校 0.0 %
1 校 1.4 %	2 校 3.9 %
62 校 83.8 %	49 校 96.1 %

平成28年度入試の募集人員について、地域連携アクティブスクールと専門学科の前期選抜の定員枠の上限が100%に引き上げられた。地域アクティブスクールの定員枠については、公立高校の86.7%、私立高校の71.4%が「適切である」と回答し（昨年度 公立65.5%、私立63.9%）、また、専門学科の定員枠については、公立高校の88.8%、私立高校の65.7%が「適切である」と回答し（昨年度 公立48.0%、私立61.1%）、概ね肯定的に捉えられている。

3 今後の本県の公立高等学校入学者選抜制度について

(1) 入学者選抜制度の改善が必要と感じていますか。

	公立	私立	計
ア はい	124 校 96.1 %	36 校 92.3 %	160 校 95.2 %
イ いいえ	5 校 3.9 %	3 校 7.7 %	8 校 4.8 %

公立高校のうち

普通科のみ 設置校	それ以外
75 校 96.2 %	49 校 96.1 %
3 校 3.8 %	2 校 3.9 %

(2) (1)でアを選んだ方に伺います。どのような改善が必要だと思えますか。

	公立	私立	計
ア 現行制度(前期選抜・後期選抜)を維持しつつ、募集割合や日程、検査内容を見直すなど改善を図る。	18 校	3 校	21 校
	14.5 %	8.3 %	13.1 %
イ 以前のような、推薦入試と学力検査による選抜(評価尺度・実施回数ともに複数化)の形式に戻す。	6 校	0 校	6 校
	4.8 %	0.0 %	3.8 %
ウ 1回(実施回数的一本化)の入試にする。	100 校	31 校	131 校
	80.6 %	86.1 %	81.9 %
エ その他	0 校	2 校	2 校
	0.0 %	5.6 %	1.3 %

公立高校のうち

普通科のみ設置校	それ以外
11 校	7 校
14.7 %	14.3 %
3 校	3 校
4.0 %	6.1 %
61 校	39 校
81.3 %	79.6 %
0 校	0 校
0.0 %	0.0 %

(3) (2)でウを選んだ方に伺います。どのような形で1回(一本化)の入試にすべきだと思いますか。

	公立	私立	計
ア 学力検査のみによる1回の選抜にする。	29 校	17 校	46 校
	28.7 %	54.8 %	34.8 %
イ 茨城県などが実施しているような、1回の入試日程で、特色化選抜と学力検査などによる選抜など複数評価尺度の選抜を同時に行う。	58 校	13 校	71 校
	57.4 %	41.9 %	53.8 %
ウ その他	14 校	1 校	15 校
	13.9 %	3.2 %	11.4 %

公立高校のうち

普通科のみ設置校	それ以外
18 校	11 校
29.5 %	27.5 %
34 校	24 校
55.7 %	60.0 %
9 校	5 校
14.8 %	12.5 %

入学者選抜制度の改善の必要性については、全体の95.2%（公立高校の96.1%、私立高校の92.3%）が、必要性を感じている。その中で、必要とされる改善に関しては、1回（実施回数的一本化）の入試への改善が最も多く、全体の81.9%（公立高校の80.6%、私立高校の86.1%）を占めている。また、現行の前期・後期制を維持した改善が全体の13.1%（公立高校の14.5%、私立高校の8.3%）、以前のような推薦入試と学力検査の複数化入試への改善は、公立高校の5%未満（私立高校0.0%）となった。9割近くのほとんどの高校が、現行入試改善の必要性を感じており、その8割以上が実施回数的一本化への改善を求めていることがわかった。

また、一本化入試の形態については、「特色化選抜と学力検査などによる複数尺度の選抜を1回の入試日程で同時に行う選抜」が、全体の53.8%（公立高校の57.4%、私立高校の41.9%）で最も多く、「学力検査のみによる1回の選抜」が、全体の34.8%（公立高校の28.7%、私立高校の54.8%）であった。

平成25年度に本委員会を実施したアンケート結果では、全高校の76.3%（公立高校の79.5%）が「入試の一本化がよい」との回答であったが、今回のアンケート結果からも、全高校の78.0%（公立高校の77.5%）の高校が「実施回数的一本化への入試制度の改善」を求めていることが明らかになった。